

演習 I

担当者 西井 進剛

開講時期 通年 単 位 4

●講義の概要

本講義の目的は、修士論文執筆のための実践的な方法及び研究テーマに関する専門知識の学習にある。前期では、テキストを用い、論文を書くための一連の流れについて学習する。後期では、学術論文及び専門書を輪読し、専門知識の学習を進めていく中で研究テーマの絞り込みを行う。加えて、修士論文執筆に備え、10,000字程度の準備的論文を実際に執筆してもらう。

●講義の到達目標

修士論文を執筆するための方法、具体的な技法について学習する。修士論文で取り扱う研究テーマを絞り込み、テーマに関する専門知識を学習する。実際に論文を執筆することで、論文執筆のための技法を体得する。

●講義計画

第1～5回 オリエンテーション、文献検索、テーマ設定の方法
第6～10回 論文の構成と論証
第11～15回 研究計画の立て方
第16～20回 方法論の検討
第21～24回 研究計画書の作成
第25～30回 準備的論文の執筆と報告

●成績評価基準と方法

- ・講義内でのプレゼンテーションの評価 (40%)
- ・ダイアログ、ディスカッションへの参加度 (30%)
- ・準備的論文 (30%)

●テキスト又は参考文献

テキスト

- ・野村康 (2017) 『社会科学の考え方』名古屋大学出版会 (ISBN978481580876)。価格3,960円
- ・伊丹敬之 (2001) 『創造的論文の書き方』有斐閣 (ISBN9784641076495)。価格1,980円
- ・戸田山和久 (2022) 『最新版 論文の教室』NHK出版 (ISBN9784140912720)。価格1,540円

参考文献

参考文献及び輪読する学術論文・専門書については、適宜紹介する。

●受講上の留意点

毎回の講義において、レジュメの作成や課題に応じたプレゼンテーションを課す (評価割合40%)。そのため、テキストはもちろんのこと、関連資料等を事前に読み込んでからゼミに参加することが求められる。加えて、ゼミ内でのダイアログやディスカッションへの積極的な参加が必須となる (評価割合30%)。準備的論文では、修士論文の執筆を想定し実際に論文を作成してもらう (評価割合30%)。なお、受講生の経営学に関する学習経験の程度、受講人数の多寡に応じて、講義内容や進め方については調整する。